

## 令和3年度学校経営計画

令和3年度～令和5年度(1年目)

校番	10	学校名	尾道北高等学校	校長氏名	藤本 秀穂	全・定・通	本・分
----	----	-----	---------	------	-------	-------	-----

**1 教育目標**

県東部のリーダー校として、幅広い知性、豊かな人間性、高い志を培い、自らの力で新しい時代を拓き活躍する人材を育成します。

**2 育てたい(幼児・児童)生徒像**

探究心旺盛で主体的に課題を発見することができる生徒  
 多様な価値観を持ち、他者との関わりを通して社会に貢献できる生徒  
 未来に向けて失敗を恐れず果敢に挑戦する生徒

**3 中期(3年間)経営目標 ※教育活動その他の学校運営に関する目標**

- (1) 生徒が主体的に学ぶ力を育てる。
- (2) 自他を尊重し、豊かな人間性を培う。
- (3) 保護者・地域社会・国内外に開かれた教育活動を展開する。

**4 短期(本年度)経営目標及び行動計画等 ※中期(3年間)経営目標を達成するための本年度の経営目標及び行動計画等**

中期(3年間)経営目標				
(1) 生徒が主体的に学ぶ力を育てる				
短期(本年度)経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (令和2年度)	目標値
主体的な学びの育成 (自ら問いを振り返ることができる)	○生徒の主体的な学び、深い学びを育成する授業を実践する。(教研) ○「問う力」を育成し、授業評価で検証する。(教研) ○「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」では、地域やグローバルに関する課題を発見し、自己の学びにつなげ、進路目標を設定させる。探究的・体験的な活動を実施し、成果発表会を実施する。(教研)	授業評価アンケートの「問う力」が「ついた」と回答した割合	74.3%	80%
		授業評価アンケートの「自分で判断して家庭学習をする」と回答した割合	78.3%	80%
学習意欲の向上・確かな学力の定着	○緻密な進路指導及び教科指導 ・模擬試験結果分析を行い、その分析内容を生徒の学習指導及び授業改善につなげ、生徒の学習意欲を向上させる。(進路)	1年進研模試(1月)の3教科総合偏差値	58.3	60.0
		2年進研模試(7月・1月)の3教科総合偏差値	58.4 (7月)	60.0
			59.4 (1月)	
新しい大学入試への対応	○共通テストへの対応 ・共通テスト分析(5・2月)を行い、教科指導力の向上につなげる。(進路) ・入試問題研究を行い、その成果を授業、入試問題セミナー、定期考査問題の作成につなげる。(進路) ○パフォーマンス課題への取組、定期考査の活用問題の作成を通して、授業力、作問力をつける。(教務)	大学入学共通テストで全国平均を5点以上上回った科目数	1	全科目
		大学入学共通テストの平均点を80点以上上回った生徒の割合	14.8%	30%
		難関大学・国公立医歯薬学部・広島大学・岡山大学合格者数	27人	50人
	○外部団体が実施する検定やコンクール等を集約し、分掌と協力して生徒に提示していく(英検準1級以上、広島県科学賞、科学オリンピック等)。(各教科) ○アクトグラフを活用して各個人の活動を振り返り、ポートフォリオ化を進める。(教研・学年)	検定やコンクール等で合格または受賞した生徒数	*R2年度 国語科15人 理科14人 英語科5人	40人

中期（3年間）経営目標

（2）自他を尊重し、豊かな人間性を培う。

短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (令和2年度)	目標値
生徒主体の活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○チューター制の充実(生徒指導) 上級生が下級生に学校生活や学習指導を導く（前期中に10回実施）</li> <li>○生徒会主催の行事の充実(生徒指導) ・球技大会などの学年やクラス毎の行事で仲間づくり行う。</li> <li>・学校行事での生徒主体の場面（生徒が決定する部分）を増やす。</li> <li>○生徒の活躍を評価し校内独自で表彰する。（生徒指導）</li> </ul>	「勉強は大変だが学校は楽しい」に対する肯定的回答の割合	85%	90%
自律的で社会に貢献する態度 (ボランティア精神など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マナー指導を充実させる。(生徒指導) ・交通マナー、相手を思う気持ち、尊重する態度を身に付ける。</li> <li>・生徒会が中心となり、前・後期各2回以上登校指導を行う。</li> <li>・PTAと協力し、交通マナー向上を目的とした下校指導を行う。</li> <li>○全校生徒に対して、個人、団体に年に1回以上のボランティア参加を促す。(生徒指導)</li> </ul>	年間を通して、校内外のボランティア活動に参加したのべ人数	444人	650人
生徒一人ひとりの学校生活が大切にされた、相談しやすい体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育相談体制を充実させる。(健康教育) ・定期及び随時の特別支援教育会議・プロジェクト会議を開き、情報の共有や対応の協議をする。</li> <li>・スクールカウンセラー(SC)を効果的に活用(面談・研修会)し、生徒・保護者・教職員への支援を行う。</li> <li>○不登校予防を行う。(健康教育・生徒指導) ・心理検査及び教育相談アンケートの活用、面談実施から要支援生徒の早期発見・対応につなげる。</li> <li>・構成的グループエンカウンターによる学年開き・クラス開きを行い、新入生が早く高校生活に慣れ、学年やクラスに所属感を持てるようにする。</li> <li>・欠席生徒に対する早期面談により、原因を探り、長期欠席生徒を減らす。</li> </ul>	「悩みごとを気軽に相談できる場が校内にありますか」の肯定的回答の割合	84%	85%

中期（3年間）経営目標

(3) 保護者・地域社会・国内外に開かれた教育活動を展開する

短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (令和2年度)	目標値
保護者への情報発信の充実 近隣の中学校や地域社会への説明責任 国内外の他校(姉妹校)との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年懇談会の実施(各学年・総務)</li> <li>・保護者との意思疎通を図り、学校家庭で連携しながら教育活動を行う。</li> <li>○学校通信、進路通信等を充実させる(総務部、進路指導部)</li> <li>・生徒の様子を保護者に伝え、保護者の協力理解を図る。</li> </ul>	「学校は HP や学校通信、学年(学級)懇談会等の機会を通して、地域や保護者が必要としている情報の提供に努めていると思いますか」	85%	90%
		「保護者に必要な進路情報が適切に提供されていると思いますか」の質問に肯定的な回答の割合	74%	80%
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒募集活動を充実させる。(総務)</li> <li>・オープンスクール</li> <li>・中学生の訪問受け入れ</li> <li>・中学校主催の進路説明会</li> <li>・本校主催の入試説明会</li> <li>○広報誌やホームページを活用し、本校の取り組みを中学校や地域に広く案内する。(総務)</li> <li>○広報用資料(学校パンフレット等)の充実を図り、中学校や地域へ広報活動を行う。</li> <li>○グローバルに関する活動への啓発を行う。</li> </ul>	オープンスクールへの参加者数	528名	600名
		HPの更新回数	94回	100回
限られた時間で成果をあげる工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間外在校等の縮減と勤務時間・健康管理を意識した働き方の促進をする。(管理職)</li> <li>○学校及び教師が担う業務の明確化・適正化。(管理職)</li> <li>○学校の組織運営体制の在り方を見直す。(管理職)</li> </ul>	すべての月の時間外在校等時間が80時間以内の者の割合	68.8%	90%
		時間外在校等時間の年間合計が720時間以内の者の割合	68.8%	80%
I C Tを活用した業務改善や授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての教職員が Classi や MetaMoji, G-Suite 等のアプリケーションを活用した授業実践や業務改善を行う。(ICT)</li> </ul>	「Classi や MetaMoji, G-Suite 等のアプリケーションを活用した授業実践や業務改善を行いましたか」の肯定的回答の割合	新規	80%

別紙：現状分析

(1) 生徒が主体的に学ぶ力を育てる

本校は、これまで広島版「学びの革新」アクションプランの推進に伴い、平成29年度から、ICT活用推進プロジェクト事業に取り組み、ICTを活用した授業への取組及び授業改善に力を注いできた。また、平成30年度からはカリキュラム・マネジメント委員会を設置し、育てたい生徒像である「く学びに自ら働きかける生徒」を明確に示す「めざす尾道北高校の学び」の作成に取り組み、令和元年度から学校生活の様々な場面での提示を行い、総合的な学習（探究）に時間や学校行事でのアクトグラフでの振り返りなどの場面で活用している。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
授業評価アンケートにおいて「この授業を受けて、課題を解決するために必要な思考力が高まった」という肯定的回答の割合	83.1%	81.1%	81.1%	—
授業評価アンケートにおいて「この授業を受けて、問う力ついた」と回答の割合	—	—	76.9%	74.3%
授業評価アンケートにおいて「自分で判断して家庭学習をする力ついた」と回答の割合	—	—	78.1%	78.3%

教科指導力の向上、生徒の学力を最大限に伸ばすことについては、本校が長年取り組んできた目標設定を、今後もプロセス検証とし目標設定を維持していきたい。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1年進研模試（7月・1月）の国・数・英の平均点偏差値	7月 58.5	7月 55.4	7月 56.5	7月 56.0
	1月 59.9	1月 56.3	1月 60.1	1月 58.3
2年進研模試（7月・1月）の国・数・英の平均点偏差値	7月 59.4	7月 58.7	7月 54.9	7月 58.4
	1月 59.6	1月 58.9	1月 57.3	1月 59.4
2年進研模試（1月）の理科・地歴公民の平均偏差値	理科基礎 59.5	理科基礎 63.0	理科基礎 58.4	理科基礎 62.0
	理科専門 55.3	理科専門 56.7	理科専門 53.4	理科専門 58.5
	地歴 58.3	地歴 58.8	地歴 55.7	地歴 55.3
公民 57.9	公民 59.1	公民 58.8	公民 55.5	
大学入試センター試験で全国平均（100点換算）で5点以上上回った科目数	11/14	8/14	8/14	1/14

1・2年次からの高い志を持つ集団づくりなどの取組により国公立大学への現役合格率は70%近い数字であり、広島大学・岡山大学への安定した合格者を出している。今年度も継続して、最難関大学への現役合格者も出しており、キャリア学習の成果を踏まえつつ、今後とも生徒の夢をかなえる組織づくりを進めていく。

卒業生進路実績

	平成29年度卒 (30年度)	平成30年度卒 (31年度)	令和元年度卒 (2年)	令和2年度卒 (3年)
難関大学・国公立医学部医学科・歯学部・薬学部合格者数（現・浪）	29人	27人	25人	9人
広島大学・岡山大学合格者数（現・浪）	29人	20人	27人	23人
国公立大学の現役合格者の割合	70.7%	66.1%	63.9%	55.7%

(2) 自他を尊重し、豊かな人間性を培う

ア グローバル人材の育成について

海外短期留学や、語学研修、外国人講師による課題発見型英語研修であるエンパワーメントプログラム等様々な取組を実施している。令和2年度は多くの活動が中止となったが、校内で実施したエンパワーメントプログラムには53名参加した。今後、SDGsの視点を踏まえ世界的な諸課題への関心を高め、グローバル社会に対応した人材を育成するための活動を支援していく必要がある。

また、特定の生徒のみが行う異文化体験だけではなく、全生徒が異文化を背景に持つ人と、英語を通じてコミュニケーションし、課題解決に取り組む場面の設定することを考え、海外への修学旅行を計画している（令和2年度は未実施）。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
グローバルな視点で構成された課外活動等に自らが進んで参加している生徒数	53人	106人	117人	53人

イ リーダーに求められる道徳性や社会性を身に付けた豊かな心を育成することについて

例年、年間を通して約90%の部活動がボランティア活動に参加し、目標値を達成してきている。今後も、道徳性や社会性を高める取組を、あらゆる教育活動を通して進めていき、外部の社会活動への参加も促していく必要がある。

ライフガイダンスルームを昼休憩に開設するとともに、スクールカウンセラーによる相談日を14回開設、月1回「ライフガイダンスルームだより」の発行などの広報活動を定期的に行った。

今後も、命の大切さを学ぶ取組をさらに充実させるとともに、不登校生徒への予防措置と取組について、学校として組織的に知見を深めていく必要がある。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
「生徒会活動・行事・LHRの中で、人としてのあり方生き方、命の大切さ等を学ぶ経験をした」という生徒へのアンケートの肯定的回答の割合	64%	68%	69%	63%
部活動加入率	85.8%	85.4%	86.8%	80.7%
「校内の清掃や美化活動に努めていると思いますか」という生徒へのアンケートの肯定的回答の割合	87%	87%	89%	89%

(3) 保護者・地域社会・国内外に開かれた教育活動を展開する

ア 地域社会に信頼される学校づくりを推進することについて

県東部の進学校としての本校の役割を考え、今後とも積極的に広報活動を展開し、生徒募集を強化する必要がある。今年度は文化祭が実施できなかったが、オープンスクールにおいては、リモートやlive配信も行い、在校生及びPTAとの対話的活動も取り入れ実施している。

入学者選抜志願者数 (単位：上段は志願者数/定員、下段は倍率)

( )内は受検年度	平成29年 (30年度)	平成30年 (31年度)	令和元年 (2年度)	令和2年 (3年度)
選抜(Ⅰ)	59/60 0.98	83/60 1.38	58/60 0.97	113/70 1.61
選抜(Ⅱ)	134/141 0.95	155/140 1.11	144/142 1.01	133/130 1.02

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ホームページの主たる内容(行事等)の更新回数	156回	95回	72回	94回
「尾道北高だより『榎峰』」の発行回数	8回	8回	5回	5回
該当中学校への本校情報提供の回数(出前授業含む)	年22回	年20回	年21回	年20回
オープンスクールへの参加者	558名	612名	542名	528名

イ 働き方改革について

時間外勤務が恒常的に発生していることや土日の部活動指導等、教員の負担が多い現状に鑑み、水曜日を定時退校日とし、18時には全員退校すること、部活動指導については、土日のうち1日は練習日を設けないことを徹底してきた。職員の実質的な週休日を確保するとともに、学校経営計画に本校としての目標設定をすることにより、以前と比べて職員全体に浸透してきた。令和元年度は、朝学や追試への取組を工夫、令和2年度は放課後補習の再検討やアンケート集計のICT機器の活用を行っている。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
授業評価、学校評価アンケートの「ICTの活用による授業改善や業務改善がなされているか」に対する肯定的回答の割合	生徒評価94% 教員評価 授業88% 業務84%	生徒評価92% 教員評価 授業89.5% 業務80.0%	生徒評価92% 教員評価 授業97.4% 業務76.9%	生徒評価90% 教員評価 授業94.9% 業務80.0%